

(国語)

解答・解説・採点基準

三 (35点)

へ物語・小説 朝井 リヨウ『星やどりの声』

解答

問一 A イ  
B ウ

問二 1 オ  
2 エ  
3 ア  
4 ウ

問三 イ

問四 「だって、ゝたんだよ」

問五 ウ

問六 ウ

問七 オ

問八 ばふん、ばゝぶつかる音

問九 素直に、心ゝ笑っている (から)

## 解説

### 問七

まずは、傍線部よりも前で説明されているハヤシの状況を整理しましょう。そうすると、傍線部②の三行後に「ハヤシくん、もううちの学校来ないみたい」と、ハヤシが転校をすることがわかります。そして、その理由は傍線部②の十行後から書かれており、「家庭に借金があって今住んでいる家にもいられなくなるから」だとまとめられます。そして、その話を聞いた真歩は「今日はたまたま風邪で休んだだけかもしれないだろ」（傍線部③の十行前）と一度は否定しますが、傍線部③の四行前から「どうして、載せようね、じゃなくて、載つけてね、なんだろう。……文集に載せる写真は委員みんなで選ぶ」とあるように、ハヤシが本当に転校することを悟ってしまっています。したがって、傍線部④と⑤において、ハヤシは街を去る前に母親と一緒に写真を見にきたのだと理解したのだと読み取れます。以上をまとめた選択肢はオになります。

### 問八

傍線部⑥はハヤシと真歩が大和さんに連れられて行った海で撮った写真を見ている場面です。そして、傍線部⑥の四行前から「どの景色も、あるときレンズを……薄いブルーの雲。カシャ。」とあるように、真歩はハヤシと一緒に写真を撮っていた時の情景を思い出しています。その情景の中の一つが、傍線部⑥の「聞こえてくる音」になるため、海で写真を撮っていた場面を読み返して、どのような印象的な音があったかを見つけていきます。そうすると、空欄4の四行前にハヤシがプールバックを蹴る音が描かれています。この音は、この場面だけでなく、ハヤシと真歩が二人で街中で写真を撮っているときにも何度も描写されているため、ハヤシを表す特徴的な音であることがわかります。したがって、ハヤシがプールバックを蹴る音が今回の空欄に入る音になります。が、「どのような音か」と聞かれているため、文末が「音」となっている表現を探すと、文章冒頭から十行後の「ばふん、ばふん、とすねにプールバックがぶつかる音」が正解だとわかります。

### 問九

ハヤシがビーフシチューを食べているときに自分自身を撮った写真を、真歩が文集に載せようと思った場面です。傍線部⑦の十行前からその写真に対する真歩の印象が語られているため、その写真が文集に載せようと思った理由もそこに書かれていると判断できます。そして、ハヤシのシチューの写真が、絶景でないものにも関わらず真歩の目に留まった理由は、「ハヤシが笑っている」（傍線部⑦四行前）からです。文章中にハヤシが元気に笑う場面は何度も描かれており、ハヤシの代名詞とも言えます。そのハヤシが笑っていることがよくわかる写真であるために、真歩はシチューの写真を文集に載せようと決めました。そして、十字以上一五字以内でそのハヤシの笑顔がしっかりと描写されている表現は「素直に、心のままに、笑っている（から）」（傍線部⑦三行前）になります。

## 採点基準

問一 A イ B ウ 各2点×2

問二 1 オ 2 エ 3 ア 4 ウ 各2点×4

問三 イ 2点

問四 「だって、くだんだよ」 4点

問五 ウ 2点

問六 ウ 3点

問七 オ 3点

問八 ばふん、ばくぶつかる音 4点

問九 素直に、心く笑っている(から) 5点